

---

# ゲーム

Hayami

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
ゲーム

【Nコード】  
N4817F

【作者名】  
Hayami

【あらすじ】  
いつもと変わらない日々を、過ごしていた奈緒、しかし、ある日突然、あなたの夢を叶えます。という招待状が、届くのだが……。

## 第一章 招待状

### 第一章 「招待状」

「ねえ！ねえ！夢の招待状って、知ってる？」

「何それー！？」

「なんでも、その招待状が来たら、なんでも夢が叶うんだって！」

「すごくないー！」

「でも、夢を、叶えるにはね・・・」

「叶えるには・・・？」

ピリリリリリ

アラームの音で、目が覚める。

重い身体を起こし洗面台へと向かう。

まるで、何かに操られているかのように、同じ毎日を、過ごしている私

「はあ、私、何してるんだろう。」

こんなことを、毎日、呟いている。

そんな毎日を過ごしていたある日、ポストに、一通の手紙が入っていた。

「何これ？招待状？誰からだろう？」

そう言いながら、部屋に入り、中を開けてみると、

おめでとつございます

篠崎 奈緒様

あなたの、夢を叶える、チャンスです。

尚、参加の決定権は、篠崎様には、ございません。

必ず（生死、問わず）参加して、いただきます。

つきましては、後日、詳しい、内容をご連絡いたします。

「何これ、今時、こんなんじゃない、子供すらだませないよ」と笑いながら、ゴミ箱に、投げ捨てた。

そして次の日

いつも通り、アラームで目が覚め、ふと、携帯の画面に目をやると、メールが着ていた。

誰だろう？そう思いながら、見てみるが、

しかし・・・そこには・・・。。。

おはようございます篠崎様

昨日の招待状の件で、ご連絡いたします。

誠に申し訳ありませんが、17時に（時間厳守）写真の場所まで、お越しく下さい。

尚17時迄にお越しにならない場合は、こういった形での参加になります。

と言う文章と一緒に2枚の写真が添付されていた。

1枚は、場所の写真そして、もう一枚は・・・。

男性か女性かわからない無残な姿の写真だった。

ガシャッ！！！！！！

思わず叫び、携帯を床に、放り投げた。

「ウソ！・・・何で・・・。」

声を震わせて、おもわず口にした。

## 第二章 監視エピソード1（前書き）

突然送られてきた招待状とメール、奈緒は、まだ、信じていなかったのだが、そこへ、新たなメールが・・・。

## 第二章 監視エピソード1

### 第二章 「監視 エピソード1」

何分経っただろうか、ふと、我に返る。

「支度しなきゃ」

そういうと、会社に行く支度をし家を出る。

電車の中、あのメールが、気にはなったが、

まだ、信じきっては、いなかった奈緒は、

いつもと、変わらない景色を眺めながら、忘れようとしていた。

だが……………。

携帯が鳴り、見ると。

そこには…………

途中経過です。

ここで、エントリーして頂いた、



人数と現在地をお知らせします。

エントリー数10名

皆、同じ目的地では、ございませんので、あしからず。

そこには、10名の名前が書いてあった。

恐る恐る、自分の名前を、クリックしてみると、地図が、表われた。

そこに・・・奈緒と書かれた赤い丸があり、線路の上を移動していた。

そう、その赤い丸が示す場所は、間違いなく、今、奈緒がいる所、

奈緒は、思わず息を呑む。

青ざめた表情で会社に着くと、心配そうに、一人の男が寄ってきた。

「どつしたの？」

そう声をかけたのは、同じ課の滝本先輩だった。

「大丈夫です。」

そう返すと、ニツコリ笑い、その場を後にした。

自分のデスクに着き、椅子に座ると、思わず、ため息をもらす。

そこへ同僚の、景子がやってきた。

「何？朝からため息なんかして！」

「実は・・・変なメールが着て・・・」

一瞬話そうか悩んだのだが、

暗い声でそう言うのと携帯を取りだし、メールを見せる、

「非通知の空メールか、確かに、怖いね」

思わず、声も出ず、ゾツとし、景子の顔を、見つめる。

そう、景子にはこのメールの文章は、見えてはいなかったのだった。

そして、奈緒は、確信した、このメールに書かれていることは、本当だろうと、

そして、午後１７時までに、写真の場所に、

行かなければ、今度は、自分が、

あの、残酷な写真の一枚に、なるんだと。

## 監視エピソード2 密告（前書き）

メールが、本物だと確信した奈緒いつたいこれから、どうなる

## 監視エピソード2 密告

監視 エピソード2  
密告

奈緒は恐怖心にかられていた。

この場所に時間内に、行かなければあの写真みたいになる。

そう、確信したのであった。

「この場所、いったいどこなの？」

そう、思いながら、写真を見つめる奈緒。

それは、工事中のコンクリート剥き出しのビルで、周りはビルに囲まれていた。

いったいどこなんだ

そう思うと、焦りを感じ、

頭の中は、そのことでいっぱいになり、仕事どころではなくなり、ただ、時間だけが、こくこくと、過ぎていくのであった。

そして、時間は12時を過ぎ・・・・・・。

ご飯も、喉を通らないくらい、焦りを感じ、

思いついたかのように、パソコンをいじりだす・・・・。

そして、

出てくる、写真をくまなく、送られてきた写真と照らし合わせ

探していく・・・・・・。

1時間そして、2時間経つが・・・

写真と同じビルはいくら探しても出てはこなかった。

焦りは、しだいに苛立ちへ……。

「時間がない……」

そう、つぶやくと、携帯に、目をやる。

その時であつた。

番号非通知の電話がかかってきたのであつた。

出るかでないか、悩むことなく、電話にでる奈緒。

「………えっ？」

奈緒は耳を疑つた。

その、電話は、若い男からで、奈緒に、写真の場所を告げたのであつた。

「待つて!!」

声を荒げ叫ぶが、それを、告げると、電話は、切れてしまった。

電話を見つめ立ちすくむが、

すぐに、こんな、ことをしてる場合じゃないと、気づき、

嘘かもしれないが、今は、信じるしかないと思ひ、

会社を、飛び出したのであった。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4817f/>

---

ゲーム

2010年10月10日00時51分発行